

エゾシカワーキンググループの経過報告・今後の予定

1. 令和4年度エゾシカWGの開催概要

- ・第1回会議 令和4年(2022年)7月4日(月) 斜里町産業会館
※WG開催後、7月5日(火) 午前に現地視察を実施
- ・第2回会議 令和4(2022年)年11月30日(水) 釧路市内
※WG開催に先立ち、9月16日(金) にリモート会議を開催

2. 主な議事内容

令和4年度(2022年度)～令和5年度(2023年度)の捕獲事業計画に関して、特に、確認個体数が増加している知床岬地区での対策方針を中心に議論しました。主な意見・指摘事項は以下のとおりです。

■捕獲事業計画について

- ・昨年度行われた航空カウント調査において、知床岬地区の確認頭数が大幅に増加※したことを受けて、この数年は十分な捕獲成果が上げられていない現状に照らし、目標を直近の調査で確認されたメス成獣頭数の半数(今シカ年度は56頭)と具体的に設定した上で、日没時銃猟を含む様々な手法を取り入れて捕獲を継続する。

※2019シカ年度：16.1頭/km²、2020シカ年度：58.2頭/km²、2021シカ年度：78.64頭/km²

- ・他の地区についても、北海道との情報共有も図りながら、地域差に応じて柔軟な体制を組むことが求められる。例えば、幌別一岩尾別地区においては、シャープシューティング等の実行に向けた様々な検討も進めるべき。

■植生等モニタリングについて

- ・森林についてはシカの影響が相変わらず続いており、80年代の植生を目標として多様性の回復を目指すには、新たな手法や視点を取り入れることを含め、この先どういった適応策を講じていくかが重要である。
- ・高山帯については、一部で気候変動による影響と考えられる傾向も確認されていることから、今後もモニタリングを継続していくことが重要である。
- ・気象観測については、新たに観測を開始したデータを含め、既に観測を行っている関係機関とデータ共有が可能な体制づくりも重要である。

■知床世界自然遺産地域管理計画の見直しについて

具体的に見直しを図るべき事項として、以下の意見が出されました。

- ・IUCNからの指摘事項に関連した記述の追加
- ・WG/AP間の連携や、議論の結果を科学委員会でオーソライズする等の仕組み
- ・その他、管理方針に対する具体的な目標や基本方針に関する記述 など

3. 今後の予定(案)

- ・第1回会議 令和5年(2023年)5～6月頃 斜里町又は羅臼町
- ・第2回会議 令和5年(2023年)11～12月頃 釧路市

以上